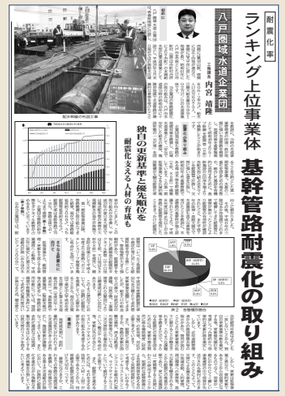
業界紙で見る「八戸圏域水道企業団 10 年のあゆみ」

提供：水道産業新聞社

平成 29 年（2017 年）



【特集】八戸圏域水道企業団発足の経緯と足跡（平成 29 年（2017 年）1 月 1 日発行）



基幹管路耐震化の取り組み
（平成 29 年（2017 年）12 月 7 日発行）



▶八戸圏域水道企業団と（株）クボタ第 1 回技術交流会開催（平成 29 年（2017 年）8 月 3 日発行）



【対談】東京都水道局 / 八戸圏域水道企業団（平成 29 年（2017 年）8 月 31 日発行）

◀企業団 HP 掲載の記事詳細はこちら

平成 30 年（2018 年）



◀【座談会】産学官の関係者の語らいで確認する基盤強化の方向性（平成 30 年（2018 年）1 月 1 日発行）



▶【座談会】これからの水道事業の基盤強化について（平成 30 年（2018 年）3 月 29 日発行）



岩手中部（企）、盛岡市とパートナーシップ締結（平成 30年(2018年)4月2日発行）



公民連携で安定給水の礎を
（平成 30 年（2018 年）5 月 21 日発行）



【寄稿】耐震管路の常時挙動観測
（平成 30 年（2018 年）10 月 18 日発行）



▶【座談会】八戸圏域水道企業団の強靭化施策について（平成 30 年（2018 年 ）8 月 30 日発行）

平成 31 年（2019 年）



基盤強化を支える

～八戸・盛岡・岩手中部のパー

今より「一段良い形」見据え

都市経営の中核担う水道

様々な層で連携し研修

将来に向け視点を共有

教える役割も勉強に

都市基盤全体を俯瞰

良い意味での誤送船団を



のは「人」のつながり

トナーシップの成果に注目～

座談会

3事業体の広域連携で得られる

成果の可能性について語り合う

出席者

古川 裕康氏

菊池 明敏氏

加藤 裕之氏

古川 熱氏

共通点・相違点を確認

意義深いOJT的交流

刺激し合う学びの「場」に

【鼎談】広域連携で得られる成果について（平成 31 年（2019 年）3 月 28 日発行）

令和 2 年（2020 年）



事故から学ぶ

～得られた教訓の発信・

ICタグで管路状態を把握

事故の根絶は適切な施工から

技術習得は管路に触れることが重要

人材確保に協会あげて取り組む

平常時の関係構築が重要に



「安定」のあり方

共有で実現する「強靭」～

座談会

事故対応が示唆する

安全・安心への道のり

出席者

清塚 雅彦氏

谷 浩氏

鶴飼 忠晴氏

坂本 憲昭氏

古川 熱氏

他団体のマンパワー活用も

「配水池は空にしない」ルールに

非常時は局の指揮下に置くことも

関係者が緊急時に水槽を操作できるように

緊急時に多くの社員が自発的に参集

【座談会】事故から学ぶ〝安定〟のあり方（令和２年（2020 年）3 月 30 日発行）

◀企業団 HP 掲載の記事詳細はこちら

令和 3 年（2021 年）



浄水処理・水質管理の効率化・高度化実現

ピコプランクトンカウンタを

導入した八戸圏域水道企業団

取材レポート

八戸圏域水道企業団では、平成28年に導入したピコプランクトンカウンタにより、浄水管理の省力・合理化を実現している。ろ過水管理のピーク時には原水管理にも役立てるとともに、浄水処理と水質管理の高度化・効率化に資するという。ここは、同企業団における同カウンタの導入経緯・効果についてレポートした。

同企業団基幹施設の白山浄水場は、馬淵川の川岸高台に昭和50年に供用開始した。同水系の水質は、世界人口の増加に伴う食糧増産により、現在の施設能力は日量135万5200㎥に対し、この約1年前の元日には馬淵川水系の導水管に異臭味が発生する現象が確認されるなど、同企業団にとって水源からの取水の安定確保が大きな課題となっていた。

新井田川水系に加え昨年度は馬淵川水系の管理へ２台目も導入

24時間連続監視がマンパワーの大幅な軽減を実現

施工管理の効率化格段に

試行工事通じ官民連携で改善

現場業務の省力化は顕著

濁度上昇のメカニズム解明も

次は施設概要だった。その特徴するとピコプランクトンカウンタの新規水源である新井田川はダム湖・起伏ある自然の記載を皮切りに、同企業団における浄水管理の概要説明へ。ピコプランクトンカウンタについては、平成28年に浄水場の原水に導入され、現在は馬淵川水系の導水管にも設置されている。

4月からの取水制限開始後から、例年5月末の取水制限解除後も、しばらくの間、原水濁度の上昇が続くことなど、早期の濁度上昇を察知することで、浄水処理の効率化や安定化に役立てるとともに、原水濁度の変動による浄水処理への影響を事前に把握することで安定給水に資するとの期待から導入に至ったという。

ピコプランクトンカウンタは、粒径1～5μm（マイクロメートル）の微小な粒子の数を計測するセンサーで、1mL（ミリリットル）中の粒子数（個数濃度）を1分ごとに計測し、その結果を1時間ごとに平均化して表示する。



八戸圏域水道企業団の主力、白山浄水場

ピコプランクトンカウンタを導入（令和３年（2021 年）5 月 31 日発行）

取材レポート

八戸圏域水道企業団が

管路整備でICT本格導入へ

トンボクとの共同研究の試行現場を盛岡・大平地区から始動



モニター（写真右上）で施工状況を共有し記録にも



サイドチェッカーなど関係ツールの性能も



関係者から説明を受ける荒井幸雄理事（写真右端）

管路整備で ICT 本格導入（令和３年（2021 年）7 月 1 日発行）

令和４年（2022年）



技術特集 水道管路の「施工情報」システム」への期待と展望

～八戸圏域水道企業団の取り組み事例を

踏まえ強靭化加速への合理的手法を考察～

①八戸圏域（企）とクボタの共同研究への期待

官民連携による研鑽で確立が図られる未来の管路施工現場について語り合う

②共同研究着手の経緯とこれまでの取り組み経過

現場の切実なニーズに応えさらなる広域連携にも活用

掘削内作業の絶対量が削減

③試行現場で確認されたメリット、成果

良いものの目指す気風が絆に

仕事のイメージ大きく変化

共同研究開始当初から進化

施工性に利便性・効率性も

若者が魅力感じる仕事に

付加価値的な機能向上も

④今後の展望＝さらなる進化と社会実装のあり方

出席者

小泉 明氏

古川 勲氏

内宮 靖隆氏

坂本 憲昭氏

坂岡 辰夫氏

岸 正蔵氏

井戸本 靖忠氏

施工情報システム

IoT活用で水道工事の施工管理品質を維持・向上

判定 OK

反

施工情報システム

スマートデバイスを使った施工管理

クラウドサーバー

サイトチェッカー

サイトアングル

ゴム輪位置確認作業をアシスト

継手屈曲角度管理をアシスト

写真の撮影＋画像解析＝角度算出

【座談会】施工情報システムへの期待と展望（令和４年（2022年）５月23日発行）



青森県三八地区水道事業広域連携推進任意協議会設立

八戸圏域（企）、三戸町、五戸町、田子町、新郷村

座長の熊谷企業長（前列中央）をはじめ各町村の首長らで記念撮影

八戸市内で開催した第１回会議

議会議員らが参加した議会も

将来見据えて基盤強化へ

6年度の基本合意目指し

5月に第1回会議を開催

人口減少に伴う料金収入減少など多くの課題が

検討部会・分科会で具体的な検討を

◀三八地区水道事業広域連携推進任意協議会を設立（令和４年（2022年）６月６日発行）

◀企業団 HP 掲載の記事詳細はこちら

令和５年（2023年）



八戸圏域水道企業団

電力会社との共同自動検針を実証

携帯電話通信網の通信特性の検証も

従来の水道メーター

スマートメーター

検針員

水道メーター

スマートメーター

企業団

水道の検針値

警報など

データを無線送信

広報紙やホームページで利用者にスマートメーターについて周知

◀電力会社との共同自動検針を実証（令和５年（2023年）８月31日発行）



わが国のナショナルミニマム

～中小規模水道の基盤の

としての「持続」を見据え

強化のあり方を展望～

県境越えた広域連携が目指す北東北地方の水道基盤強化のあり方

建前から前進した関係性

「北奥羽経済圏」の中で

値上げのハードルは高く

広報で議員の理解深まり

水道広域化の現実的モデル

何でも相談し合える場に

基盤強化へ課題認識共有

出席者

青木 秀幸氏

古川 勲氏

三浦 哲也氏

鶴飼 忠晴氏

坂本 憲昭氏

中村 勇雄氏

和野 康弘氏

【座談会】北奥羽地区水道事業協議会の活動から探る方向性（令和５年（2023年）９月14日発行）

令和６年（2024年）



【座談会】北東北地方主要３事業体の連携事例（令和６年（2024年）２月15日発行）



【座談会】香川・八戸の情報・意見交換を踏まえ考察（令和６年（2024年）４月22日発行）



◀【座談会】耐震接手ダクタイル鉄管採用から半世紀（令和６年（2024年）10月３日発行）



▶八戸発の耐震化の意義と足跡を再確認（令和６年（2024年）12月16日発行）

◀企業団 HP 掲載の記事詳細はこちら

令和７年（2025年）



秋田市、石巻（企）と相互応援協定締結（令和７年（2025年）４月10日発行）



震度６に耐えた強靭性確認 青森東方沖地震（令和７年（2025年）12月25日発行）

令和８年（2026年）



【特集】八戸圏域水道企業団企業長 / 日水協理事長トップ会談」（令和８年（2026年）１月１日発行）



SUS 角形配水池の耐震性立証（令和８年（2026年）３月30日発行）



八戸圏域水道企業団創立 40 周年の節目を祝う（令和８年（2026年）７月23日発行）

業界紙で見る「八戸圏域水道企業団 メモリアル」

提供：水道産業新聞社



◀八戸圏域広域化計画なる
（昭和 60 年（1985 年）
10 月 24 日発行）



▶歩きはじめた広域水道
（昭和 61 年（1986 年）9 月 4 日発行）









【特集】設立 10 周年を迎えた八戸圏域水道企業団（平成 8 年（1996 年）7 月 29 日発行）

◀企業団 HP 掲載の記事詳細はこちら





◀▲【特集】八戸圏域水道企業団創立 20 周年
（平成 18 年（2006 年）4 月 24 日発行）





〝新白山浄水場〟が完成
（平成 18 年（2006 年）5 月 1 日発行）



地域の「持続」と「発展」

～特集・八戸圏域水道

へ水道広域化を推進

企業団創立30周年～

広域水道のパイオニアとして挑戦し続ける

伝統引き継ぎ次世代へ

新たな広域連携を推進

厚労省、総務省、日水協

地域全体の経営効率化を

県域越えた新たな連携推進

新たな広域化の先進事例に

広域的な視野で水道界リード

常に一歩先見据えた取組が

企業団の沿革

地域の「持続」と「発展」

～特集・八戸圏域水道

へ水道広域化を推進

企業団創立30周年～

水道広域化のこれからについて語り合う

段階的な集約化で効率的に

技術継承と人財育成が急務

危機回避へ連携が不可欠

地域のまとめ役の存在が

【特集】八戸圏域水道企業団創立 30 周年（平成 28 年（2016 年）７月 14 日発行）

◀企業団 HP 掲載の記事詳細はこちら



企業団のあゆみ

年月	備考
昭和61年4月	八戸圏域水道企業団事業開始
昭和62年4月	第一期拡張事業着手
昭和62年12月	水道広域共同事業の実施に関する覚書締結
昭和63年12月	八戸圏域水道企業団給水変更認可（厚生大臣）
平成元年12月	水道ダム建設工事に関する基本協定締結
平成2年4月	職人養成業所開設
平成3年4月	馬淵営業所開設 第一期拡張事業新施設一部完成
平成4年4月	圏域内3ブロック体制本格始動
平成6年4月	水道料金オンラインシステム稼働
平成8年2月	水道ダム建設工事に関する変更基本協定締結
平成8年11月	企業団創立会議
平成13年3月	八戸圏域水道企業団給水変更認可（厚生労働大臣）
平成13年4月	水道ダム建設工事に関する変更基本協定締結
平成16年3月	水道ダム完成
平成16年4月	水道ダム供用開始
平成17年3月	八戸圏域水道企業団給水変更認可（厚生労働大臣） 八戸圏域島守地区簡易水道事業給水変更認可（青森県知事）
平成18年4月	白山浄水場（新井田川系）竣工
平成19年3月	職人第一馬淵営業所廃止
平成23年10月	新料金制度施行（口径別料金体系）
平成24年3月	八戸圏域水道企業団給水変更認可（厚生労働大臣）
平成24年4月	島守地区簡易水道事業を上水道に統合
平成26年4月	南部町二又地区簡易水道事業を上水道に統合
平成26年7月	平成26年度優良給水方公営企業総務大臣表彰の受彰
平成27年3月	八戸圏域水道企業団資材備蓄センター竣工
平成28年7月	企業団創立30周年記念式典
平成30年3月	馬淵川系導水管更新事業着手
令和元年11月	繁沢配水幹線シールド工事開始
令和5年12月	馬淵川系導水管更新事業に伴う新旧管切替完了

寄稿 八戸圏域水道企業団の40年の足跡

内宮 靖隆

「安全」「安心」「持続」「連携」見据え

幾多の地震にも被害は最小限

先進広域水道事業体の歩みと今後の方向性を展望

～八戸圏域水道企業団創立40周年記念～

八戸圏域水道企業団の「先進性」卓越性を確認する

～40年の試練と今後の発展の方向性を語る～

熊谷 雄一氏

細渕 智氏

滝沢 賢氏

住澤 勲氏

先進広域水道事業体の

～八戸圏域水道企業団

歩みと今後の方向性を展望

創立40周年記念～

投資の意義を地域で共有し

旧南部藩共通の文化圏ゆえに

「安かろう悪かろう」と一線画し

他の地域で検討中のことも実現

然るべき料金で住民の合意

水道施設は予防保全措置で

腹を括って引っ張る気概が

世増ダムが大きな役割を

設立当初から料金等を統一

先人の先見性に改めて敬意

断水がないことの価値実感

水道を守る意識の高さが

【特集】八戸圏域水道企業団創立 40 周年記念（令和８年（2026 年）７月２日発行）